

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第4区分
 【発行日】平成23年3月3日(2011.3.3)

【公開番号】特開2009-172774(P2009-172774A)
 【公開日】平成21年8月6日(2009.8.6)
 【年通号数】公開・登録公報2009-031
 【出願番号】特願2008-10872(P2008-10872)
 【国際特許分類】

B 4 1 M 5/385 (2006.01)

B 4 1 M 5/388 (2006.01)

B 4 1 M 5/39 (2006.01)

【FI】

B 4 1 M 5/26 1 0 1 K

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月14日(2011.1.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

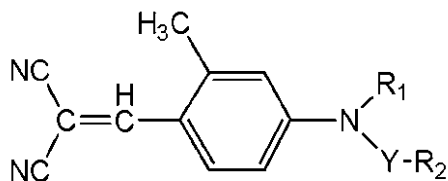
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

基材の片面に、複数の色材層が設けられた感熱転写体において、
 少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式1で示されるジシアノメチン系色素が
 含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式2で示されるインドアニ
 リン系色素が含有されていることを特徴とする感熱転写体。

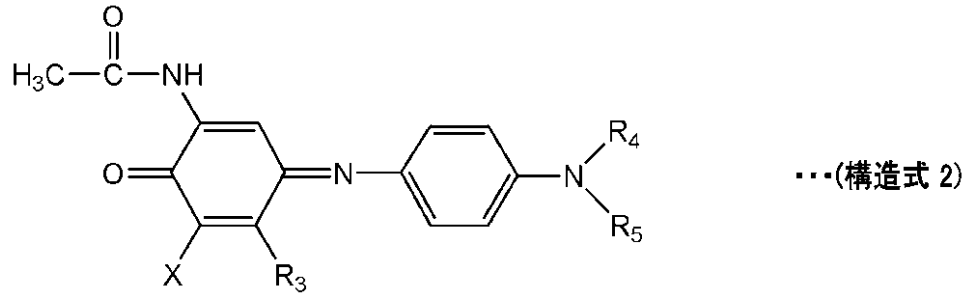
【化1】



…(構造式1)

(ここで、R1はアルキル基、Yは-C₂H₄-または-C₂H₄O-、
 R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 2】



(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【請求項 2】

上記複数の色材層のうち、残りの少なくとも1つの上記色材層には、マゼンタ色の色素が含有されていることを特徴とする請求項1記載の感熱転写体。

【請求項 3】

上記複数の色材層のうち、残りの少なくとも1つの上記色材層は、ブラック色相を有する色材層であり、該色材層のブラック色相は、単一色素又は複数種類の色素の混合によるものであることを特徴とする請求項1記載の感熱転写体。

【請求項 4】

上記基材の片面に、上記複数の色材層の他に、転写用のオーバーコート層が設けられていることを特徴とする請求項1記載の感熱転写体。

【請求項 5】

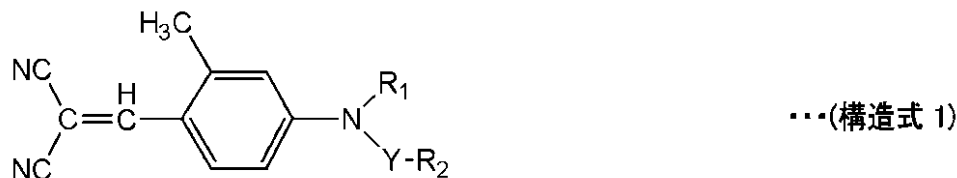
上記複数の色材層、又は上記複数の色材層及び転写用のオーバーコート層が、上記基材の片面に面順次に設けられていることを特徴とする請求項1記載の感熱転写体。

【請求項 6】

基材の片面に、複数の色材層が設けられた感熱転写体において、

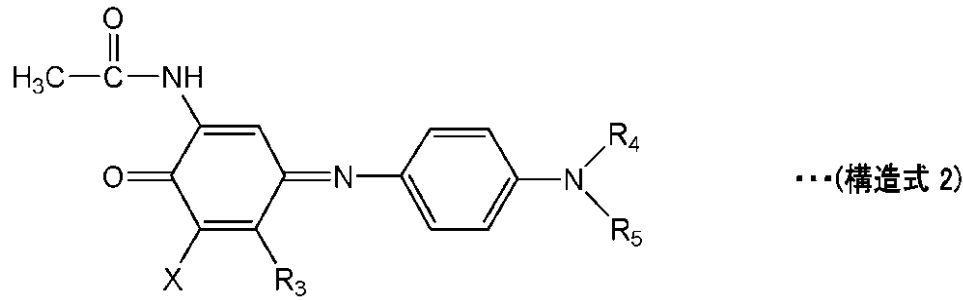
少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式1で示されるジシアノメチン系色素及び下記の構造式3で示されるジスアゾ系色素が含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式2で示されるインドアニリン系色素及び下記の構造式4で示されるアントラキノン系色素が含有されていることを特徴とする感熱転写体。

【化 3】



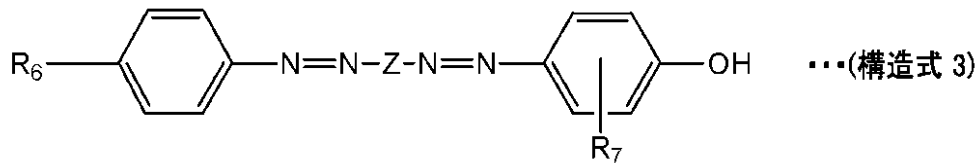
(ここで、R1はアルキル基、Yは-C₂H₄-または-C₂H₄O-、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 4】



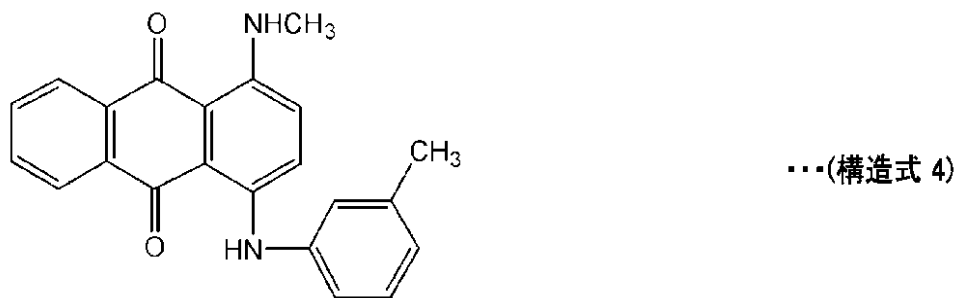
(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【化 5】



(ここで、R6は水素原子、またはアルコキシ基、Zは1, 4-フェニレン基または1, 4-ナフタレン基、R7は水素原子、または炭素数1~4のアルキル基をそれぞれ表す。)

【化 6】



【請求項 7】

上記複数の色材層のうち、残りの少なくとも1つの上記色材層には、マゼンタ色の色素が含有されていることを特徴とする請求項6記載の感熱転写体。

【請求項 8】

上記複数の色材層のうち、残りの少なくとも1つの上記色材層は、ブラック色相を有する色材層であり、該色材層のブラック色相は、単一色素又は複数種類の色素の混合によるものであることを特徴とする請求項6記載の感熱転写体。

【請求項 9】

上記基材の片面に、上記複数の色材層の他に、転写用のオーバーコート層が設けられていることを特徴とする請求項6記載の感熱転写体。

【請求項 10】

上記複数の色材層、又は上記複数の色材層及び転写用のオーバーコート層が、上記基材

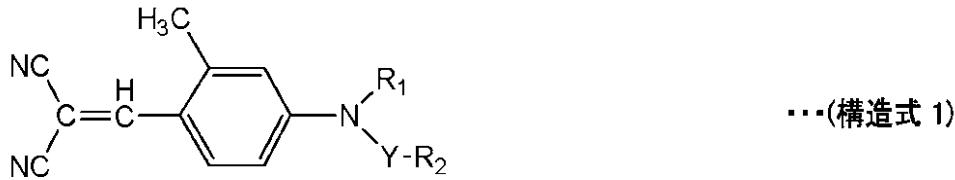
の片面に面順次に設けられていることを特徴とする請求項 6 記載の感熱転写体。

【請求項 1 1】

基材の片面に、色素を含有する複数の色材層が設けられた感熱転写体の上記色材層を記録ヘッドで、記録信号に応じて、選択的に加熱し、上記色素を被転写体に感熱転写して記録する記録方法において、

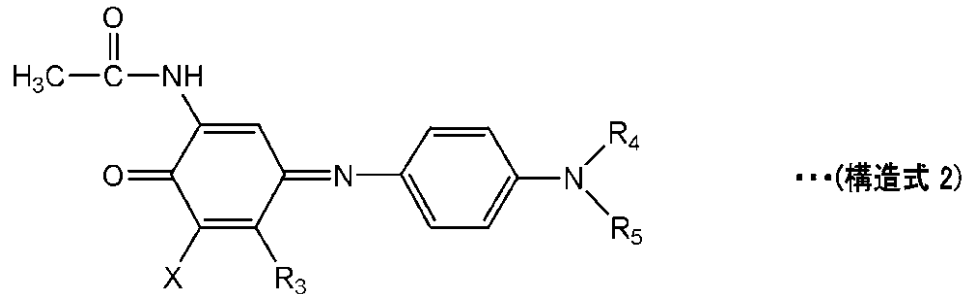
上記感熱転写体の少なくとも 1 つの上記色材層には、下記の構造式 1 で示されるジシアノメチン系色素が含有され、他の少なくとも 1 つの上記色材層には、下記の構造式 2 で示されるインドアニリン系色素が含有されていることを特徴とする記録方法。

【化 7】



(ここで、R1はアルキル基、Yは $-C_2H_4-$ または $-C_2H_4O-$ 、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 8】



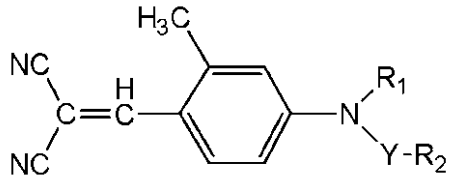
(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【請求項 1 2】

基材の片面に、色素を含有する複数の色材層が設けられた感熱転写体の上記色材層を記録ヘッドで、記録信号に応じて、選択的に加熱し、上記色素を被転写体に感熱転写して記録する記録方法において、

上記感熱転写体の少なくとも 1 つの上記色材層には、下記の構造式 1 で示されるジシアノメチン系色素及び下記の構造式 3 で示されるジスアゾ系色素が含有され、他の少なくとも 1 つの色材層には、下記の構造式 2 で示されるインドアニリン系色素及び下記の構造式 4 で示されるアントラキノン系色素が含有されていることを特徴とする記録方法。

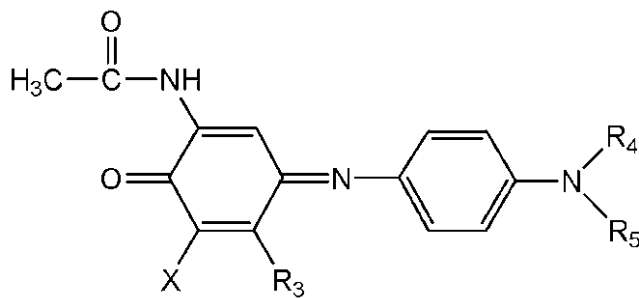
【化 9】



…(構造式 1)

(ここで、R1はアルキル基、Yは $-C_2H_4-$ または $-C_2H_4O-$ 、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

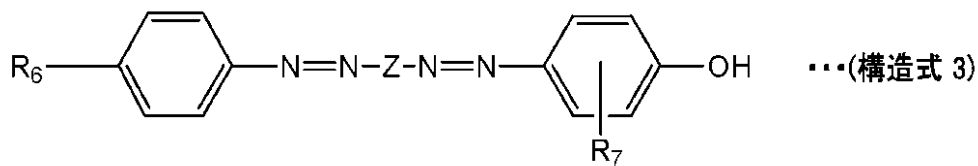
【化 10】



…(構造式 2)

(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

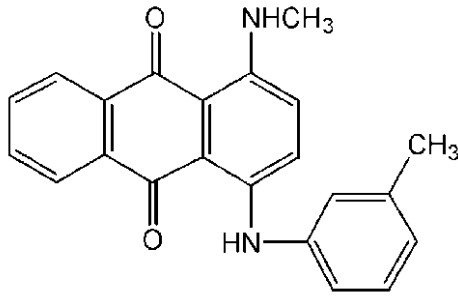
【化 11】



…(構造式 3)

(ここで、R6は水素原子、またはアルコキシ基、Zは1,4-フェニレン基または1,4-ナフタレン基、R7は水素原子、または炭素数1~4のアルキル基をそれぞれ表す。)

【化 1 2】



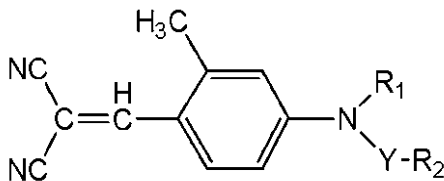
…(構造式 4)

【請求項 1 3】

複数の発熱素子からなる複数の記録ヘッド毎に、基材の片面に、色材を含有する色材層が1つ又は複数設けられた感熱転写体を複数種類有する感熱転写体セットにおいて、

少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式1で示されるジシアノメチン系色素が含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式2で示されるインドアニリン系色素が含有されていることを特徴とする感熱転写体セット。

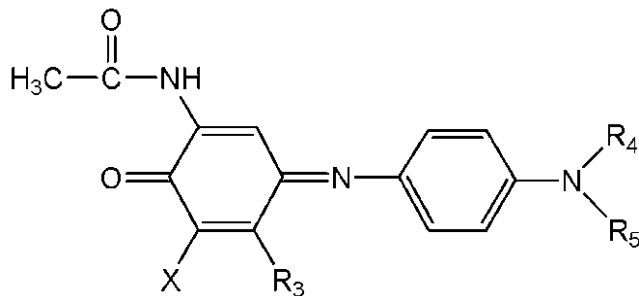
【化 1 3】



…(構造式 1)

(ここで、R1はアルキル基、Yは $-C_2H_4-$ または $-C_2H_4O-$ 、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 1 4】



…(構造式 2)

(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

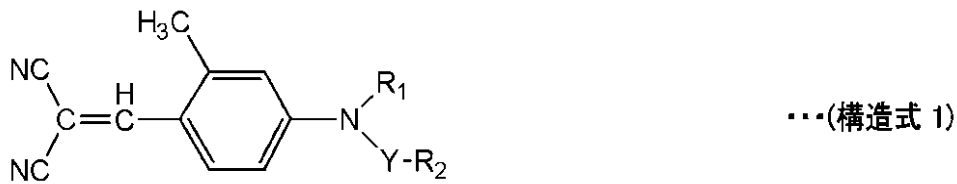
【請求項 1 4】

複数の発熱素子からなる複数の記録ヘッド毎に、色材を含有する色材層が1つ又は複数設けられた感熱転写体を複数種類有する感熱転写体セットにおいて、

少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式1で示されるジシアノメチン系色素及び下記の構造式3で示されるジスアゾ系色素が含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式2で示されるインドアニリン系色素及び下記の構造式4で示される

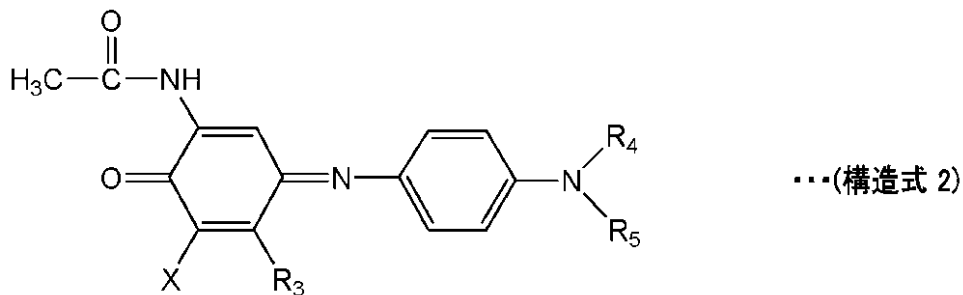
アントラキノン系色素が含有されていることを特徴とする感熱転写体セット。

【化 1 5】



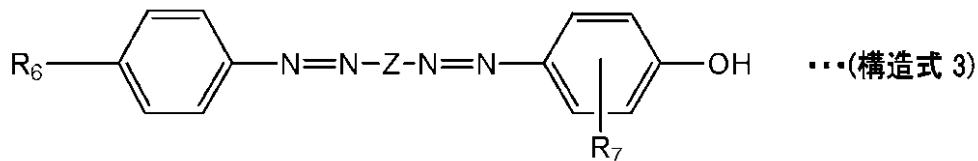
(ここで、 R_1 はアルキル基、 Y は $-\text{C}_2\text{H}_4-$ または $-\text{C}_2\text{H}_4\text{O}-$ 、 R_2 は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 1 6】



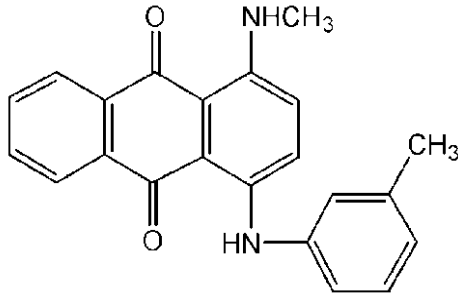
(ここで、 X はハロゲン原子または水素原子、 R_3 、 R_4 、 R_5 はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【化 1 7】



(ここで、 R_6 は水素原子、またはアルコキシ基、 Z は1,4-フェニレン基または1,4-ナフタレン基、 R_7 は水素原子、または炭素数1~4のアルキル基をそれぞれ表す。)

【化 1 8】



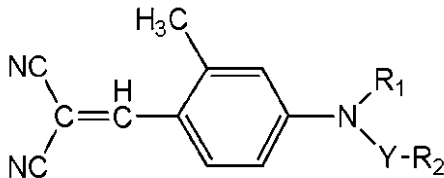
…(構造式 4)

【請求項 1 5】

複数の発熱素子からなる複数の記録ヘッドを用いる記録方法であって、基材の片面に、1つ又は複数の色材層が設けられた感熱転写体を複数種類用意し、この用意した感熱転写体毎に、該記録ヘッドを各々対応させ、記録信号に応じて、選択的に加熱し、上記色素を被転写体に感熱転写して記録する記録方法において、

少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式 1 で示されるジシアノメチン系色素が含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式 2 で示されるインドアニリン系色素が含有されていることを特徴とする記録方法。

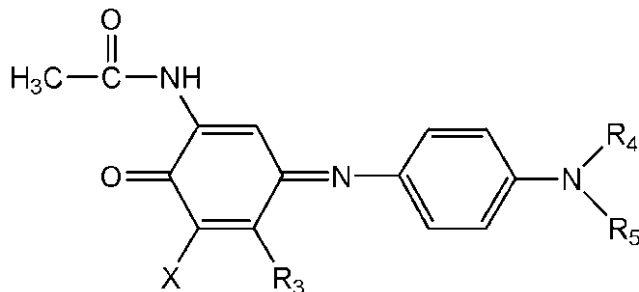
【化 1 9】



…(構造式 1)

(ここで、R1はアルキル基、Yは $-C_2H_4-$ または $-C_2H_4O-$ 、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化 2 0】



…(構造式 2)

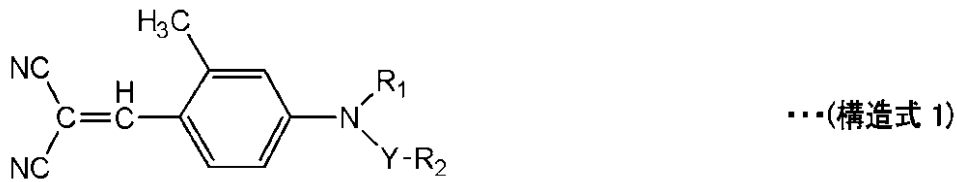
(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【請求項 1 6】

複数の発熱素子からなる複数の記録ヘッドを用いる記録方法であって、基材の片面に、1つ又は複数の色材層が設けられた感熱転写体を複数種類用意し、この用意した感熱転写体毎に、該記録ヘッドを各々対応させ、記録信号に応じて、選択的に加熱し、上記色素を被転写体に感熱転写して記録する記録方法において、

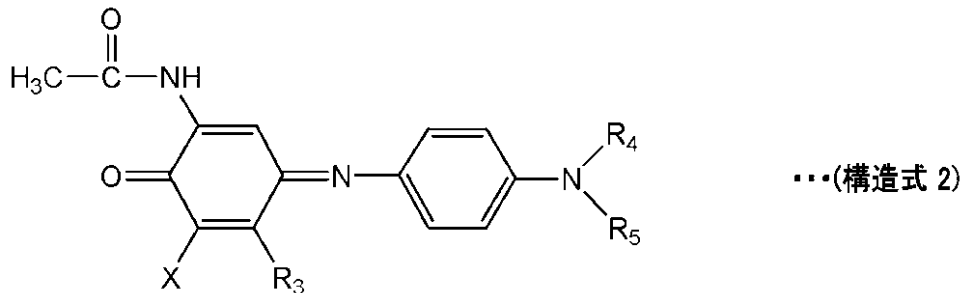
少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式1で示されるジシアノメチン系色素及び下記の構造式3で示されるジスアゾ系色素が含有され、他の少なくとも1つの上記色材層には、下記の構造式2で示されるインドアニリン系色素及び下記の構造式4で示されるアントラキノン系色素が含有されていることを特徴とする記録方法。

【化21】



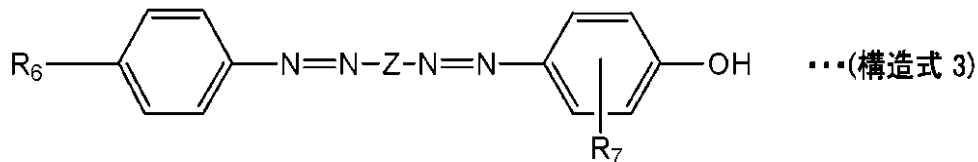
(ここで、R1はアルキル基、Yは $-C_2H_4-$ または $-C_2H_4O-$ 、R2は置換あるいは非置換のアリール基を表す。)

【化22】



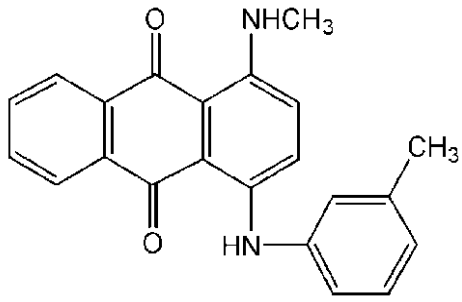
(ここで、Xはハロゲン原子または水素原子、R3、R4、R5はそれぞれ独立して炭素数1~4のアルキル基を表す。)

【化23】



(ここで、R6は水素原子、またはアルコキシ基、Zは1,4-フェニレン基または1,4-ナフタレン基、R7は水素原子、または炭素数1~4のアルキル基をそれぞれ表す。)

【化 2 4】



... (構造式 4)